

Keio University

Faculty of Nursing and Medical Care

慶應義塾大学 看護医療学部

2022



<https://www.nmc.keio.ac.jp>



看護の学びを広げ、 あなたの未来を広げる、 慶應義塾

さまざまなライフスタイルが共存する社会の中で、
人々が健康に暮らすためには何が必要か、
看護の立場からどのような貢献ができるか。
それらを追究し、実践するためには、
看護の対象である人間とその環境を理解し、
看護学にとどまらず、幅広く学ぶことが重要です。
慶應義塾大学看護医療学部は、
総合大学として、医療系三学部を擁する大学として、
いままでの保健・医療・福祉の枠を越えて活躍できる、
先導者の育成をめざしています。

写真：ピンングセレモニー
看護の象徴として、ピンバッジを与えるセレモニーです。
学生は看護医療の分野で先導者となるべく、
将来の目標をステートメントとして発表します。

学びと未来へ、
慶應義塾の
オリジナリティ

総合大学の強み > p.4

湘南藤沢キャンパス(SFC)の総合政策学部・環境情報学部の
科目をはじめ、興味・関心に応じて他学部の科目を履修。大学
病院のある信濃町キャンパスで臨地実習を行います。

三学部合同教育 > p.11

医療系の医学部・看護医療学部・薬学部が合同で実施するプロ
グラム。「グループアプローチによる患者中心の医療実践」に貢
献することを目的に、三学部の学生が共に学びます。

多彩な進路 > p.14

病院や行政機関に就職する人。一般企業で活躍する人。起業
にチャレンジする人。さらなる学びを志して進学する人。多彩な
進路は、総合大学で培った能力とスピリットの表れです。

～学部長からのメッセージ～

多様化する課題に立ち向かうチャレンジを

看護医療学部は、2001年に慶應義塾大学の9番目の学部として開設され、2021年は創設20年を迎えましたが、その礎として慶應看護の長い歴史があります。

慶應義塾大学医学部創設の師である北里柴三郎博士は、「治療術」の進歩だけではなく「看護術」の進歩がなければ効果は得られないと説き、医学科創設の翌年である1918年に看護婦養成所を設置しています。慶應看護の実践と発展を支えてこられた多くの先輩諸氏から、「実学」と「独立自尊」を大切にす精神が脈々と受け継がれ、2018年には慶應看護100年という節目を迎えることができました。

「生命・人間尊重の精神の涵養」「看護の判断能力、問題解決能力、実践力の養成」を目標とした看護医療学部の教育では、幅広い知識の習得と共に、多彩な体験に基づく思考の発展や人間的成長を目指します。そのために、数々の魅力ある教育プログラム等が準備されています。医学部・看護医療学部・薬学部の医療系三学部による合同教育、学部独自の海外研修プログラム、学生の関心に合わせた海外活動を支援する奨学金制度、そして総合大学の特徴を生かした豊富な教授陣と幅広い科目履修等が挙げられます。個々の関心や主体性を尊重し、きめ細やかな個別指導を可能とする少人数教育を組み入れ、学生からも高い満足度が得られています。

一方、世界的なCOVID-19感染症の拡大により、社会・経済的影響は多大なものとなり、人々の生活は一変し、新たな価値観の創造や社会全体の再構築が求められています。現代日本に目を向けると、超高齢社会、少子化、そして気候の変動により拍車がかかっている災害大国でもあり、健康に関連する課題は複雑に多様化してきています。柔軟性を持って様々な課題に立ち向かい、新たなケアを創出し、高い倫理観を持ち、人々が健やかに安寧に暮らせる社会に貢献し得る人材が求められます。それは、わが国だけではなく、世界共通の願いです。

慶應義塾の信条とする「自我作古(じがさっこ)」(われよりいにしえをなす)の気概を持って、チャレンジして欲しいと思います。



慶應義塾大学看護医療学部長
武田 祐子



4領域・16分野で構成された、4年間のカリキュラム

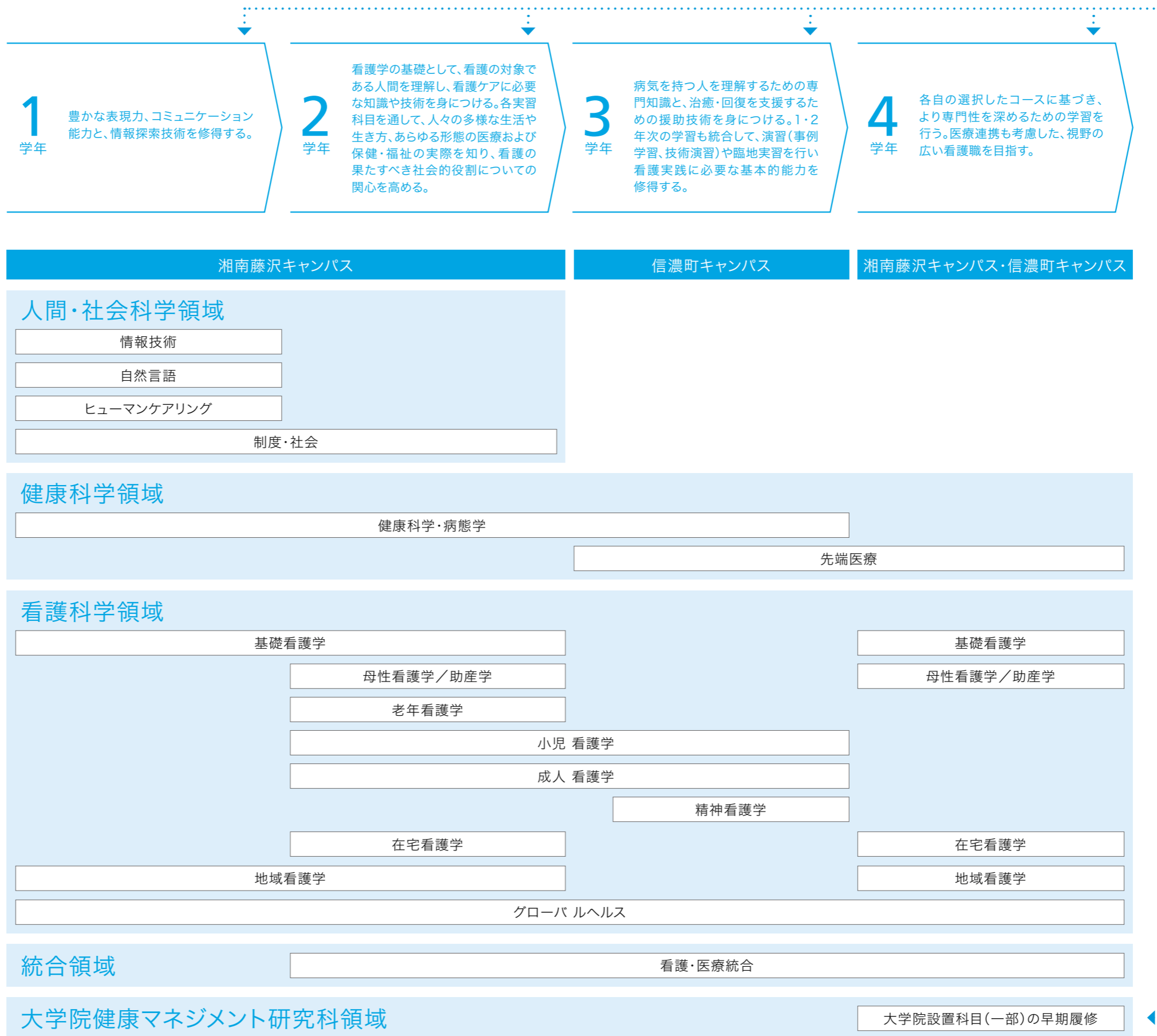
総合大学の利点を活かした学び

看護医療学部では、総合大学であるという利点を活かし、一人ひとりの興味・関心に応じて他学部の科目を履修することができます。特に、メインキャンパスとなる湘南藤沢キャンパス(SFC)では、総合政策学部や環境情報学部の科目を履修する学生が多く、学部の枠を越えてお互いに刺激し合いながら、視野を広げています。講義・演習科目においては、その専門性を高めるために、積極的に他学部の教員を招いています。また、慶應義塾大学病院のある信濃町キャンパスで、さまざまな病気の患者さんに対する看護や医療の臨地実習を行うことができるなど、2つのキャンパスで効果的に学べる点も大きなメリットです。

自由な発想を育てる 少人数制教育

ディスカッションやグループワークを取り入れた、少人数制教育も特徴の一つです。特に専門科目の演習や実習においては、1グループを10名程度で構成し、それぞれのグループを1～2名の教員が担当して指導します。この方法を採用することで、学生が主体的に授業に参加できる環境を作り、教員はグループでの学習がスムーズに進むように関わりながら、学生一人ひとりに対してきめ細やかな指導が行えます。また、グループワークでは学生の自由な発想による意見交換が活発に行われるため、多様なものの見方や考え方に触れて、それぞれが多くの学びを得て成長することができます。

例えば、医学部、看護医療学部、薬学部合同の「グループアプローチによる患者中心の医療実践教育プログラム」では、医療系三学部が交流を持ち、グループ学習などを通じて互いの学部の共通性と相違性を理解し、共同作業の大切さを学びます。



さまざまなフィールドでの実習

高い看護能力の修得を目指し、実習にも重きを置いています。

- 1 学年：病院における見学実習
- 2 学年：学内演習で身につけた技術を応用し、大学病院や外部の高齢者施設などで実習
- 3 学年：病気で入院中の患者とその家族に対する看護を学ぶための、大学病院や外部施設(緩和ケア病棟・精神科病院など)での実習
- 4 学年：在宅療養中の人々に対する看護を学ぶための、外部の訪問看護ステーションなどでの実習
- 保健師選択コース： >p.14 市の保健センターや企業の健康管理部門での実習
- 助産師選択コース： >p.14 一般病院・大学病院の産科病棟・外来、助産院などでの実習



健康マネジメント研究科との5年一貫教育

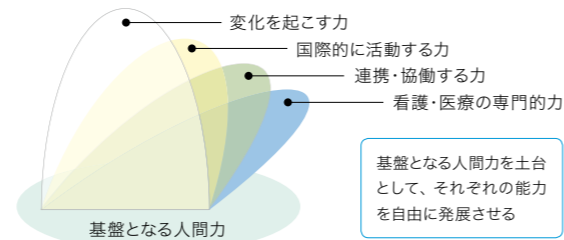
3年次までの成績が優秀な学生は、4年次に大学院(健康マネジメント研究科)の科目の一部を早期履修(先取り)することができます。このことにより、学士課程・修士課程をあわせて5年で修了することもできます。

*各領域の具体的な設置科目はp.7参照(2021年4月1日現在)

看護医療学部における3つのポリシー

ディプロマポリシー (卒業の認定に関する方針)

学則で定める卒業に必要な単位数を取得することが、
学士号授与の要件となります。
また、卒業までに以下の5つの力を身につけていることを重視します。



基盤となる人間力

基本倫理としての生命・人間尊重の精神とともに、人間的に調和の取れた人格を備え、社会人として成長することができる力。ならびに、幅広く社会への関心をもち、人々と出会い交流し、相互作用を起こすことができる力を身につけていること。

連携・協働する力

高度化された医療に対応する、さまざまな専門職で構成されたチームにおいて、お互いの専門性を最大限に活かしながら、より優れた実践につなげるために行動できる力を身につけていること。

変化を起こす力

看護や医療および社会で起こっている、あるいは起こる可能性のある事象へ関心をもち、そこから問題を発見する批判的な力と、その問題を解決し、既存の枠を変革していく力を身につけていること。

看護・医療の専門的力

これからの社会や、人々の生活を見据え、看護の知識や技術を駆使して新しい看護活動の場を創造し、保健・医療・福祉を先導するための基礎的な力を身につけていること。

国際的に活動する力

国際的な感覚とともに、日本のポジションや役割を的確に捉えることのできる幅広い教養を備え、他の国々の医療専門職と協働できる、柔軟な発想や行動力を含めた基礎的な力を身につけていること。

これら5つの力は、「人間・社会科学領域」、「健康科学領域」、「看護科学領域」、「統合領域」という4つの領域で構成されるカリキュラムを通して学ぶことになります。

授与する学位：学士(看護学)

カリキュラムポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)

カリキュラムは以下の4領域・16分野で構成されています。基礎から実践力まで幅広く養います。

人間・社会科学領域

〈情報技術〉〈自然言語〉〈ヒューマンケアリング〉〈制度・社会〉の4つの分野から成り立っています。人間や社会を、広く深く理解するための科目が配置されています。

看護科学領域

〈基礎看護学〉〈母性看護学／助産学〉〈老年看護学〉〈小児看護学〉〈成人看護学〉〈精神看護学〉〈在宅看護学〉〈地域看護学〉〈グローバルヘルス〉の9つの分野から成り立っています。人間をどうとらえ、人間が生活する環境や人間の健康をどうとらえ、看護をどうとらえるか。さまざまな視点からアプローチできる科目が配置されています。

健康科学領域

〈健康科学・病態学〉〈先端医療〉の2つの分野から成り立っています。心身の健康と、健康が破綻した時の病態、およびその回復過程を理解するための科目が配置されています。

統合領域

〈看護・医療統合〉分野から成り立っています。「人間・社会科学領域」と「健康科学領域」における学びを基盤に、「看護科学領域」の9つの分野全体を見渡し、医療とは何か、看護とは何かを、あらためて問い直すための科目が配置されています。

アドミッションポリシー (入学者の受入れに関する方針)

看護医療学部は、「人の健康と生命、看護への関心をもち、他者の苦痛や悩みを理解しようとする人」、「人を尊重し自分とは異なる立場や文化、価値観を持つ人々とコミュニケーションでき、関係を築いていこうとする人」、「ものごとを多角的にとらえ、そこにある問題に気づき、解決の方向性と対策を考え出し、それを実行する意志と行動力がある人」、「自らやると決めたことをやり遂げようとし、失敗の経験から学び、自身を成長させようとする人」、「自分の行いが人々や社会に役立つことを望み、人々や社会のよりよいあり方を追求しようとする人」を求めています。学部開設の目的である、人々と社会のため看護医療の先導者となる意欲ある人材を、一般選抜、AO入試、第2学年学士編入学試験などの多様な方法により選抜しています。

設置科目一覧

☆保健師選択コース必修 ★助産師選択コース必修

領域	分野	必修科目		選択科目	
人間・社会科学領域 人間や社会を、広く深く理解するための科目が配置されています。	情報技術	情報とネットワーク 看護情報リテラシー	データサイエンス	マルチメディア表現 保健統計学	ヘルスケア情報学 プログラミング入門Ⅰ プログラミング入門Ⅱ
	自然言語	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB		看護医療の英語Ⅰ 看護医療の英語Ⅱ	
	ヒューマンケアリング	心の理解と共有		ストレスマネジメント 心理学 人間生命を考える	コミュニケーションの理論と実際 ボランティア体験 体育2・3
	制度・社会	慶應義塾入門 保健医療福祉行政と政策		社会福祉原論 ☆ 世界の医療・保健制度Ⅰ(比較制度論) 世界の医療・保健制度Ⅱ(海外研修)	医療と経済 法学基礎Ⅰ(法律理解への基礎知識) 法学基礎Ⅱ(法律理解への実践知識)
健康科学領域 心身の健康と、健康が破綻した時の病態、その回復過程を理解するための科目が配置されています。	健康科学・病態学	人体探検 身体の構造と機能 健康論 環境論 病態学入門 急性期病態学総論 慢性期病態学各論	慢性期病態学総論 慢性期病態学各論 精神病態学総論 精神病態学各論 終末期病態学 看護のための薬理学	看護のための生物学 看護のための栄養学 看護のための生化学・生理学	
	先端医療			救急医学・救急看護 クリニカルエンジニアリングと医療安全管理	先端医療技術 遺伝と医療
看護科学領域 人間をどうとらえ、人間が生活する環境や人間の健康をどうとらえ、看護をどうとらえるか。さまざまな視点からアプローチできる9つの分野の科目が配置されています。	基礎看護学	今日の看護医療 ライフステージと発達看護論 看護学原論 看護と倫理 生命倫理 生活援助技術	医療支援技術 ヘルスアセスメント 看護過程 看護と倫理 基礎看護ケア実践Ⅰ(看護活動の実際) 基礎看護ケア実践Ⅱ(生活援助)	看護理論と実践 看護と哲学	
	母性看護学／助産学	母性発達援助論 母性発達援助実践		性と生殖における健康と権利 ★ 助産理論 ★ 助産診断・技術Ⅰ(ローリスク妊産婦の診断とケア)★ 助産診断・技術Ⅱ(ハイリスク妊産婦の診断と治療)★	助産ケアⅠ(ローリスクマタニティケア)★ 助産ケアⅡ(ハイリスクマタニティケア)★ 助産管理 ★ 助産実践 ★
	老年看護学	老年発達援助論 老年発達援助実践			
	小児看護学	小児発達援助論 小児看護学	小児看護学演習 小児看護ケア実践		
	成人看護学	成人発達援助論 成人看護技術演習 急性期看護学 急性期看護学演習 急性期ケア実践	慢性期看護学 慢性期看護学演習 慢性期ケア実践 終末期看護学 終末期看護学演習 終末期ケア実践		
	精神看護学	精神看護学 精神看護学演習	精神ケア実践		
	在宅看護学	在宅看護論 在宅看護技術演習	在宅看護実践		家族看護学
	地域看護学	地域看護論 地域看護活動論 学校・産業保健		公衆衛生看護活動論 ☆ 公衆衛生看護管理展開論 ☆ 公衆衛生看護実践Ⅰ(行政看護) ☆	公衆衛生看護実践Ⅱ(産業看護) ☆ ヘルスプロモーション実践 健康教育技法 ☆
	グローバルヘルス	災害と看護		プライマリーヘルスケアと国際保健Ⅰ(開発援助論) プライマリーヘルスケアと国際保健Ⅱ(海外研修) 臨床看護実践(海外研修) 国際看護実践Ⅰ(国内) 国際看護実践Ⅱ(海外)	
	統合領域	看護・医療統合	看護研究Ⅰ 移行期看護論 医療システムアプローチ実践	ナーシングマネジメント論 ナーシングマネジメント実践	看護研究Ⅱ 先端看護学

学問の魅力、みなさんへの期待



将来を予測しにくい時代の中で、 最良の看護医療を創り出せるように

私は、「看護マネジメント・医療政策」を専門にしています。看護の技術や仕組みのベストプラクティス(最良の方法)を創り出し、それを医療や介護の現場で実践するシステムや、制度化するための方法などを研究する学問です。最近では、医療従事者がいきいきと働き、安全で質の高い医療や介護を患者さんに提供できるように、行動経済学の「ナッジ」を活用した方法や職場のデザインについて研究しています。今年からは、この「ナッジ」や行動デザインを活用した新型コロナウイルス感染予防対策について、多様な組織や研究者と検討し、生み出したアイデアの社会実装を目指しています。

授業は、学生が主体的に参加するアクティブラーニングを中心に進めています。学んだことを土台に、自分で調べたり、実際に活動している人に

話を聞いたりできるように構成しています。慶應義塾の理念に基づく取り組みとしては、「プライマリヘルスケアと国際協力Ⅱ(海外研修)」(医療系三学部合同ラオス研修)が挙げられます。例えば、「実学」の側面。学生たちは、現場に身を置き、現地の人びととの生活・交流を通して得られた事実データから、真の問題を理解します。そこで初めて、その社会にとっての持続可能な解決策を考えられるようになるのです(写真は研修の1シーン)。

現代は、将来の予測が困難な状態を意味する「VUCAの時代」と呼ばれます。今ある知識・技術を学ぶだけでなく、よりよい看護の方法や仕組みを「探求し続ける力」が必要です。医療や社会が変化しても決して変えてはいけない「ひとや社会への共感性・倫理的な思考力」を基盤に、深く洞察する人になってほしいと願っています。一方では、多くの問題が一つの専門領域の中だけでは解決できなくなっている状況を踏まえ、「多様な領域の人びとと協働する力」も育まなくてはなりません。「VUCAの時代」だからこそ、「大局的に考える力」が重要になっているのです。

様々な分野で活躍している卒業生を授業に招いたり、一緒に研究や活動をしたりするときには大きな喜びを感じます。学生は「未来からの留学生」です。未来からの預かりものでもあった卒業生の今の輝きを知ることが、教育活動を高めていく大きな源泉となっています

小池 智子 准教授



※この写真は「サンタ企画」というイベントの際に撮影されたものです。サンタ企画とは、看護医療学部生が中心として活動するサンタ企画実行委員会による、慶應義塾大病院でクリスマスに行うイベントです。

実践の集大成となる「プロジェクト」

4年次には、4年間の学びを統合させる選択科目としてプロジェクトⅠ(基礎)・Ⅱ(応用)が設置されています。これは、自分の将来や興味・関心に応じてテーマを自由に設定し、研究計画書を作成し、実際に研究を行う科目です。また、これに向け2年次から看護研究Ⅰ・Ⅱといった科目も開講されています。

〈プロジェクト Pick Up〉

慢性病をもつ当事者の視点から看護を創る

本プロジェクトでは、がんや糖尿病などの慢性病をもつ人の視点から新たな看護を探究し、創ることを目指しています。プロジェクト活動においては、学生が臨床実習などの学びの経験を通し、疑問や関心を持ったことを大事に、研究課題へつなげていくことを重視しています。そのために文献検討だけでなく、フィールドワークやインタビュー調査を行い、当事者の生の声を聴き、触れ合う機会を大切にしています。

研究活動は、講義や実習のようなカリキュラムに則った学びとは異なり、探究心と主体的かつ誠実な姿勢が不可欠です。論文を仕上げるまでの地道なプロセスは難しく、苦しいこともあります。新たな発見、気づきを得た時の喜びや、論文を仕上げたときの達成感、充実感は大変大きく、何ものにも代えがたい体験になります。プロジェクトの経験が研究への姿勢や論理的思考力を養い、将来専門的な道を歩んでいくうえでの糸口になることを願っています。

看護医療学部では、教員と学生が対等に学び、意見交換し、知的に刺激し合う双方向の関係性を築いています。プロジェクトはそのような関係性を象徴する学びの場です。また、慶應義塾大学は総合大学なので、他学部との多様な交流があります。特に医療系の医学部、薬学部との協働、連携を進められることも、プロジェクトにとどまらない学びの特長だと思います。

矢ヶ崎 香 教授



COLUMN

多彩な考えや価値観に触れる、 学部の枠を越えた活動

学生は、勉学の合間をぬってさまざまな活動に積極的に取り組んでいます。看護医療学部を拠点とするサークルで、国内外における保健医療活動や研究発表などを行っている学生。湘南藤沢キャンパス(SFC)の総合政策学部生・環境情報学部生との音楽・スポーツ・ビジネスをはじめとした活動や、医学部生・薬学部生とのボランティア活動に力を入れる学生。さらに、学部の枠を越えて体育会に所属し、早慶戦などで活躍する学生もいます。他学部の学生と交流を深め、多彩な考えや価値観に触れられることも、総合大学である慶應義塾ならではの魅力です。

意欲や適性を 多面的に評価する入試制度

看護医療学部は、将来、看護・医療の先導者として人々と社会に貢献できる意欲ある多様な人材を求めています。そこで、一般選抜に加え、AO(アドミッションズ・オフィス)入試、帰国生入試、外国人留学生入試、第2学年学士編入学試験を実施しています。これらは、一般選抜とは異なる視点で、受験生の多彩な背景を評価しようとするものです。AO入試は、受験生が自由意思で応募でき、書類審査と面接で合格者を決定します。募集はA方式・B方式の2方式があります。帰国生入試、外国人留学生入試の詳細は入学センターウェブサイトをご参照ください。第2学年学士編入学試験については学部ウェブサイトをご参照ください。

入学して思うこと、力を入れて取り組んでいること



社会へ出てから再燃した 国際保健への思いを編入学で叶える

私は、一度は看護医療とは異なる道へ進みました。しかし、30歳を目前に以前から興味があった国際保健への思いが再燃し、第2学年学士編入学試験を受け入学しました。慶應義塾大学の看護医療学部を選んだ理由は、「国際的に活動する力」をディプロマポリシーに掲げ、そのための学びの環境が整っていると感じたからです。三学部合同教育など学部の垣根を越えて学べる、総合大学としての強みにも惹かれました。

入学後は、地域での予防医療への関心から地域保健について学び、それを低所得国での活動に反映させられるよう、国際保健の学びに力を入れています。課外活動としては、学部の研究奨励基金を利用して、中東パレスチナの医療支援団体(NGO)の活動に参加しました。医療資源に制限のある中で血圧測定や服薬援助などを実際に行い、健康の維持増進を支援したのですが、学内での学びを実践の場で活かすことに自身の成長を感じました。同時に、人を対象とする医療に国境はないと実感できたことも、今後の成長への糧になったと思います。

看護医療学部には、看護職を志す人だけでなく、看護医療の学びを活かして社会に貢献したいと考える人も多く、様々な視点を持った仲間と切磋琢磨できます。さらに、教員との距離の近さも魅力です。私の意見に個別にフィードバックを頂いた時には、個々に親身に向き合う姿勢に感動しました。入学して本当に良かったと思っています。

3年 五木田 嵩
(東京都・私立関東国際高等学校 出身)

恵まれた環境とサポートを活かして 幅広い研究活動にチャレンジ

私は赤ちゃんや子どもが好きで、将来は助産業界で活躍したいと考えています。その目標へ向け視野を広げるために、入学後は学内外で様々な活動に取り組んできました。まず医療系学生による国際協力隊Euphoriaでは、インドネシアのストリートチルドレン(主に路上で生活したり、日中路上で働く子供たちのこと)を対象に健康教育活動を体験しました。2年次には看護医療政策学生会(SAPnmc)の一員として、「ナッジ(望ましい行動を相手に自然に行わせる行動経済学上の概念)×健康」をテーマに研究を行い、SFC(湘南藤沢キャンパス)の研究発表大会ORF(Open Research Forum)に出場しました。

最近では、「妊婦に優しいキャンパス」の理想像を探る個人研究を行ったり、「医療機関におけるAI問診票導入に伴う患者・従業員満足度調査」の研究を進めるために、学外ゼミに参加したりしています。患者・従業員満足度調査の成果は慶應SFC学会で発表する機会をいただき、奨励賞を受賞できたことで研究への意欲がさらに高まりました。現在は4年生が参加できるプロジェクトに所属し、学会誌への掲載を目指して論文を執筆中です。

同じキャンパス内に他学部や大学院が併設されている看護医療学部では、このように幅広い研究活動にチャレンジできます。多様な奨学金制度のサポートもあります。先輩の皆さんにも、慶應義塾大学の恵まれた環境を最大限に活用し、仲間や先輩、先生方からいい刺激を受けながら、有意義な学生生活を送ってほしいと思っています。

3年 佐村 紫帆
(沖縄県・県立首里高等学校 出身)



医療系三学部の学びへ

専門の連携へ、三学部合同教育プログラム

慶應義塾は、医療系に医学部・看護医療学部・薬学部を擁する大学として、三学部が互いに連携し、保健・医療を追求できる人材を育成しています。三学部合同教育プログラムは、「グループアプローチによる患者中心の医療実践」に貢献していくことを目的に、医療系三学部の学生が共に学ぶカリキュラムです。共通のテーマのもと、それぞれの立場を尊重しながら、質の高いチーム医療を提供するための専門職連携のあり方を実践的に学びます。1年次に初期教育、2年次に中期教育、4年次に後期教育を実施するほか、ラオスにおける海外研修プログラムも三学部合同で行われています。



世界を実感する学びへ

グローバルな視点で医療を学ぶ、多彩な研修プログラム

春季・夏季休校期間には、看護医療学部独自の国際交流プログラム(選択科目)が6科目用意されています。グローバルな視点で医療に触れることから生まれる問題意識は、未来の看護医療のあり方を模索していく原動力となります。(※社会情勢により開講されない場合もあります。)



看護医療の英語Ⅱ	マギル大学(カナダ)を拠点に、医療機関等を見学しながら、看護学と医療英語を実践的に学びます。
世界の医療・保健制度Ⅱ(海外研修)	英国の医療・看護・福祉の制度とケア提供の実際について、講義や医療施設の見学を通して学びます。
国際看護実践Ⅰ(国内研修)	看護医療学部と交流の深いウルチ大学(韓国)、復旦大学(中国)、サフォーク大学(英国)、ワシントン大学(米国)の短期留学生と合同で、グローバルな保健・医療の課題について日本国内で学びます。
国際看護実践Ⅱ(海外研修)	ウルチ大学(韓国)における研修を通して、グローバルな視点から看護コンピテンシーについて学びます。
臨床看護実践(海外研修)	米国における最新の看護実践と看護教育の場を見学し、Patient- and Family- Centered Careの医療について学びます。
プライマリーヘルスケアと国際保健Ⅱ(海外研修) (医療系三学部合同教育プログラム)	ラオスにおける地域の人々の保健状況や健康に対する意識を知るとともに、国際協力についても学び、被援助国と援助国側の関係、開発におけるパートナーシップ、保健分野における持続可能な開発、住民中心の健康づくりの可能性を考えます。

海外での学習や活動を支援する、独自の奨学金

看護医療学部の前身、慶應義塾大学医学科附属看護婦養成所卒業生の寄附による「青田与志子記念慶應義塾大学看護医療学部教育研究奨励基金」から、海外での自主的な学習・研究活動に対する奨学金を支給しています。これまでに奨学生は400名以上おり、世界各国で各自の興味に沿った多様なテーマの研究を行いました。〈近年の渡航先：米国、イスラエル、インドネシア、カンボジア、ザンビア、シンガポール、タイ、台湾、南アフリカ、インド、コンゴ、ガーナ、カナダ、東ティモール、フィリピン、パレスチナ、オーストラリア、英国、タンザニア〉

あなたは、どんな“未来の自分”を思い描いていますか



臨床指導ナースとして、現場と基礎教育をつなぐ

私は慶應義塾大学病院で看護師をしています。様々な診療科勤務を経て、現在は脳神経外科病棟で、臨床指導ナースとして看護師の教育や看護学生の臨地実習指導を行っています。また、アドバンス実践者として臨床指導ナースのスキル向上を支援しています。

学生演習には、臨床の現場と乖離のないように、企画や環境の整備、当日のリハーサルから参画させていただき、看護医療学部から先生方から教育スキルを学ぶ機会となっています。また、演習から看護学生と関わることで、学生のみなさんがどのように体験し、学びを深め、臨地実習へ向かっていくのかを知る機会にもなっています。

今の自分があるのは、患者さんのおかげ

印象に残っている学生時代の学びは、3年次の精神科実習です。精神疾患領域における社会復帰支援体制を学ぶために、日本の社会復帰病棟で実習を行い、アメリカの精神保健福祉システムを学ぶためにボストンでの見学実習に参加し、働いている方にインタビューをさせていただきました。現在勤務する診療科とは異なりますが、この経験は患者さんを広い視点から支援するきっかけになったと感じています。

看護師の魅力は、何より患者さんとの関わりです。今の自分があるのは、看護医療学部の先生方、先輩方はもちろんですが、患者さんの

おかげだと思っています。患者さんは、私に経験とともに多くの感情を与えてくださり、看護師としてのスキルだけでなく内面も育ててくれました。どの職業でも人との関わりはありますが、病を抱える一人の生活者との関係は、家族や友人とは異なる深いものがあると思います。

現場につながる、看護医療学部の学び

慶應義塾大学の看護医療学部は、総合大学という強みもあり、これからの医療を学ぶ場所です。他職種を含めたチーム医療が欠かせなくなる中、他学部と肩を並べて学ぶことができる環境や、医療系三学部の合同教育プログラムは大きな魅力だと思います。

看護師として働いていると、看護医療学部には現場につながる学習がたくさんあったことを実感します。先生方をはじめ学部関係者の方々は、本当に学びやすい環境を準備してくれていると思います。私も、学生のみなさんが臨地実習で安心して学べるように、新人看護師として入職した際にスムーズに成長していくことができるように、臨床と基礎教育をつなぐ役割を果たしていきたいと思っています。

2005年卒業 水谷 麗華
慶應義塾大学病院 勤務



ミッションは、「すべての人に家に帰る選択肢を」

救命された人々がなかなか家に帰れないのはなぜか。私は、初めてのキャリアとなった救命救急センターで、いくつかの問題意識を持ちました。その重要な解の一つが、在宅医療の拡充だと気づいたことが契機となり、訪問看護事業の立ち上げに携わることとなります。業界史上最年少の訪問看護ステーションの所長となり、4年間にわたり事業責任者として24時間365日のサービスに取り組みました。

そのような施設をもっと増やしていくために、独立して設立したのが「ウィル訪問看護ステーション」です。現在は、その運営のほか、訪問看護師特化型の人材紹介や、訪問看護電子記録システムの開発と販売、在宅看護専門看護師としての活動なども並行して行い、東京都訪問看護ステーション協会の研修委員長を務めています。

価値観やライフスタイルも、「健康」の一部

看護師という職業は、「健康」に関する問題をロジカルに分析し、診断・介入・評価する仕事です。「健康」は、単に病気でないということではなく、身体・精神・社会などの面で充足しているかどうかで判断されます。家族、価値観、ライフスタイル、やりたいことなど、その人のすべてと付き合いながら、「健康」問題を解決していくことが私たちの役割です。

一人として同じ人はいないため、常に一人ひとりに応じたクリエイ

ティブティを求められます。その中で、看護の原理原則を駆使して、その人がよりよい人生を全うできるように全力を尽くしていくことは、言葉では言い表せない達成感と職業への誇りをもたらしてくれます。

様々な選択を可能にする、看護医療学部

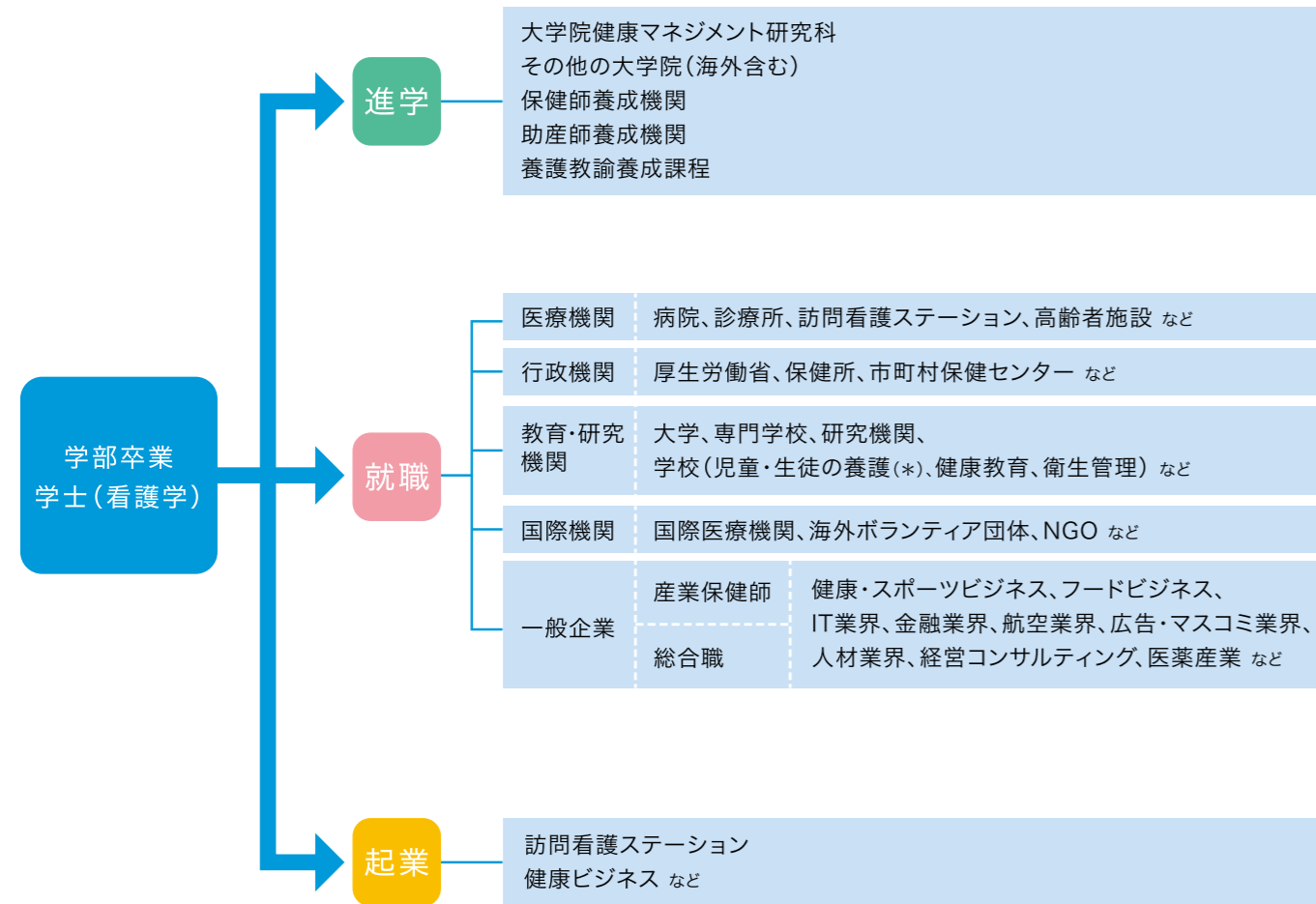
日本では多くの人が、病院のベッドで人生の最期を迎えています。家で暮らすための受け皿が足りないのが現状です。しかし、在宅看護を提供できれば、予想もしていなかった生活ができたり、自分を取り戻したり、成長発達を見守れたり、本人が望む最期を迎えられたりといった成果を得ることができます。私は、「すべての人に家に帰る選択肢を」というミッションの達成を目指したいと考えています。

振り返ると、慶應義塾大学の看護医療学部は、様々な選択を可能にする“機会”が多いと思います。国や人種を越え、テクノロジーとケアの間を越え、看護学以外の学問との垣根を越え、枠にとらわれずに実学をアップデートできる環境があります。みなさんの興味・関心に合わせて、伸び伸びとチャレンジできる場になることを願っています。

2010年卒業 岩本 大希
Wyl株式会社・ウィルグループ株式会社 代表取締役

卒業後の進路

卒業後の進路は、慶應義塾大学病院をはじめとする病院への就職から、産業保健師や自治体への保健師としての就職、IT業界や金融業界などの一般企業への就職まで、実に多彩です。大学院や保健師・助産師養成課程へ進む学生もいます。



*保健師の資格取得後、申請により養護教諭2種の資格を取得できます(別途文部科学省令で定める科目の修得が必要)。

進路希望に応じた選択コース制

看護医療学部では、卒業と同時に、全員が看護師の国家試験受験資格を取得できます。さらに、保健師・助産師の養成のために選択コース制を導入しており、4年次に選択コースを修了すると、保健師または助産師の国家試験受験資格も取得できます(人数制限あり・同時選択不可・助産師コースは女子のみ)。選択コース希望者は、3年次秋学期に希望票を提出し、選抜の結果、履修が許可されると、4年次において卒業に必要な科目と並行して各コースの必修科目を履修します。各コースに設置された科目の中には、コース外の学生が履修できるものもあります。

卒業生全員

看護師国家試験受験資格



保健師選択コース修了者(20名程度)

保健師国家試験受験資格

助産師選択コース修了者(最大6名、女子のみ)

助産師国家試験受験資格

就職・進学状況

2019年度 業種別データ

業種	人数
医療、福祉業	91
サービス業	4
金融、保険業	1
教育学習支援業	1
公務(教育公務員除く)	1
その他	1
就職者計	99
進学者	4
就職・進学以外の進路	3

※医療系職種で就職した者は就職先法人の業種によらず「医療、福祉業」に就職したものと算出
例：慶應義塾に事務職員として就職 → 教育学習支援業
慶應義塾に看護師として就職 → 医療、福祉業

(注1) 原則として2020年4月30日現在の本人からの進路届に基づく。
(注2) 2019年9月の卒業・修了者を含む。
(注3) 就職者の中には進学就職者を含む。
(注4) 就職者の中には社会人学生が企業に復職した者を含む。

2019年度 上位就職先データ

就職先	人数	(男子)	(女子)
慶應義塾	59	(2)	(57)
その他の就職先*	40	(4)	(36)
就職者計	99	(6)	(93)

※慶應義塾大学病院は慶應義塾に含む

*その他の就職先内訳

医療機関	26
行政機関	4
教育・研究機関	1
一般企業	4
その他	5

大学院 健康マネジメント研究科

学部卒業後すぐ、または数年の実践経験を経て大学院に進学する学生も少なくありません。慶應義塾大学では、あらゆる人々に健康をもたらす、医療やケアの質の向上を先導するための大学院として、看護医療学部を主要な基礎学部とする「健康マネジメント研究科」を設置しています。2018年からは、看護学専攻と公衆衛生・スポーツ健康科学専攻という2つの専攻による新しい教育・研究体制がスタート。看護学(専門看護師コース・研究者コース)、公衆衛生学、医療マネジメント学、スポーツマネジメント学という5つのプログラムがあり、各分野の最先端で活躍する指導教員のもと、健康、医療、ケアのすべてを包括的に学びます。

研究科概要

専攻	看護学専攻	修業年限	修士課程 2年
	公衆衛生・スポーツ健康科学専攻		後期博士課程 3年

修了後の進路

看護学専攻では、病院をはじめとした施設や、地域における看護上級実践者および管理職、大学などの教育・研究機関における教育・研究職が主たる進路となります。公衆衛生・スポーツ健康科学専攻では、保健・医療・福祉関連団体から、研究教育機関、国・地方公共団体などの公的組織、スポーツ関連団体、さらに民間企業まで、進路は多岐にわたります。

慶應義塾 看護100年のあゆみ

慶應義塾は、2018(平成30)年、看護教育が始まってから100年という大きな節目を迎えました。その長きにわたる歴史を振り返り、年表や写真とともにご紹介します。

- 1858 (安政5) 江戸築地鉄砲洲に福澤諭吉が蘭学塾を開く。慶應義塾の原点。
- 1917 (大正6) 慶應義塾大学医学科を開設。
- 1918 (大正7) 医学科付属看護婦養成所を開設し、第一回生の養成を開始。
- 1920 (大正9) 医学部を開設し、慶應義塾大学病院を開院。
- 1922 (大正11) 医学部付属産婆養成所を開設。
- 1938 (昭和13) 医学部付属看護婦養成所と改称。
- 1944 (昭和19) 医学部付属看護婦産婆養成所と改称。
- 1945 (昭和20) 空襲により医学部・病院施設の6割が焼失。
- 1950 (昭和25) 保健婦助産婦看護法により、医学部付属厚生女子学院と改称。
- 1954 (昭和29) 医学部付属看護婦学院を設置。
- 1960 (昭和35) 看護婦進学コースとして別科課程を設置。
- 1971 (昭和46) 大学病院付属高等看護学院(准看護婦の夜間進学コース)を設置。
- 1977 (昭和52) 学校教育法、施行規則などの一部改正により、厚生女子学院は専修学校となる(看護専門課程本科、進学科一部、進学科二部)。
- 1978 (昭和53) 厚生女子学院創立60周年記念式典を開催。
- 1988 (昭和63) 看護短期大学を開設。
- 2001 (平成13) 湘南藤沢キャンパス(SFC)に看護医療学部を開設。
- 2005 (平成17) 大学院健康マネジメント研究科(修士課程)を開設。
- 2007 (平成19) 大学院健康マネジメント研究科(博士課程)を開設。
- 2011 (平成23) 医療系三学部(医学部・看護医療学部・薬学部)による合同教育を開始。
- 2018 (平成30) 慶應看護100年記念式典を開催。

慶應看護の始まり

慶應義塾における看護教育は、1918(大正7)年に、「慶應義塾大学医学科付属看護婦養成所」が開設されたことに始まります。54名の第一回生を迎え、看護教育がスタートしました。



慶應義塾大学病院全景(昭和初期)



整形外科処置実習風景(昭和初期)



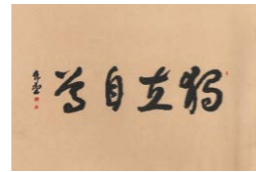
ひなまつり(昭和17年)

「独立自尊」と「実学」を重んじる看護教育を継承

戦争の大きなダメージから立ち直った「看護婦産婆養成所」は、1950(昭和25)年、「厚生女子学院」として新たなスタートを切りました。看護婦免許は、地方免許から国家免許となりました。



内科診療実習(昭和10年頃)



福澤諭吉遺墨「独立自尊」



慶應義塾大学病院外来玄関(昭和10年頃)



慶應義塾大学病院周辺(昭和30年頃)

21世紀の看護・医療の先導を目指して

21世紀のスタートとともに、看護医療学部が開設されました。大きく変動する時代の中で、看護・医療の先導的な役割を果たす人材の育成を目指し、幅広い看護教育を展開しています。



看護医療学部実習風景

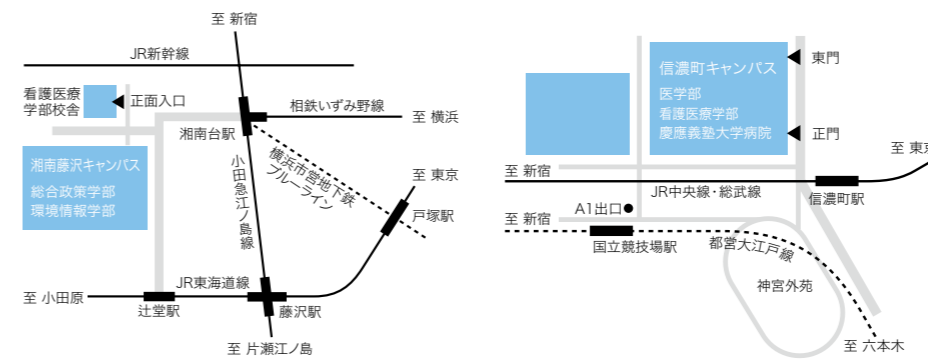


看護医療学部校舎



信濃町キャンパス(上:慶應義塾大学病院、左下:孝養舎、右下:図書館)

Campus & Access



湘南藤沢キャンパス(SFC)
〒252-0883 神奈川県藤沢市遠藤4411
湘南藤沢事務室看護医療学部担当
TEL 0466-49-6200

- 湘南台駅(小田急江ノ島線/相鉄いずみ野線/横浜市営地下鉄ブルーライン)西口よりバス[慶応大学]行き約15分
横浜～湘南台=約30～40分
- 辻堂駅(JR東海道線)北口よりバス[慶応大学]行き約25分
横浜～辻堂=約25分
- ▶羽田空港～上大岡～湘南台=約70～75分

信濃町キャンパス
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
信濃町キャンパス学生課
TEL 03-5363-3662

- 信濃町駅(JR中央線・総武線各駅停車)徒歩1分
新宿～信濃町=約6分
東京～秋葉原～信濃町=約20分
- 国立競技場駅(都営地下鉄大江戸線)徒歩5分
新宿～国立競技場=約4分
- ▶羽田空港～浜松町・大門～国立競技場=約45～55分



SFCの学びを結ぶ「鴨池急行 SoKankan」

湘南藤沢キャンパス(SFC)における、学部の枠を越えた幅広い学びを支える無料シャトルバス。総合政策学部・環境情報学部ゾーンと看護医療学部ゾーンを結びます。

※本パンフレットに登場する人物の学年、所属、職位などは、特に注記のない限り2021年2月現在のものです。
※一部新型コロナウイルス感染症感染拡大以前に撮影された写真が含まれます。